

見える化の検討を行うこととしており、道と北総研が協力し、住宅性能の見える化の試験的運用を行っています。

過去のアンケート調査で入居者からの要望が高く、内覧ではわからない断熱性能、防音性能について、相当する省エネ基準、断熱材の厚さ、JIS-L等級、床スラブ厚から★の数でその性能を表しています。実施時期は平成26年2月11日～3月24日です。

来年度には対象物件の入居者アンケートから効果を検証し、適切な見える化手法を提案する予定です。

これらの成果は、道が民間住宅の質向上を目指す取り組みを検討する際に活用されます。

企画の詳細については、こちらのサイトをご覧ください。

<http://suumo.jp/edit/free/FR/010/kaisha/152738001/>

(居住科学G 福井)

=====
ひとことエッセイ「自炊生活、1年目」
=====

昨年4月から、総務部長として北総研に勤務している。研究所の勤務は初めて、この約1年間戸惑うことばかり。

その第一は、単身赴任の自炊生活。数年前、上川総合振興局で4年間勤務したが、その時は、寮生活。人間なんて所詮数十年のいのち。立って半畳、寝て1畳。だから寮生活は快適だった。料理が苦手な自分にとって、食事の心配がないのは、何より快適。それが、今度は、自炊生活。この北総研、職場に食堂がないのは仕方ない。しかし、なんと、近所にもない。少し離れたところにコンビニが一軒あるだけ。「俺、餓死するかもしれない」、本気で思った。知り合いに相談したら、こんな返事が返ってきた。「部長の公宅家族世帯が多いから、夕方、皿をもって各家庭を訪問し、おかずを分けてもらったら?」。冗談じゃねえ、そこまで、落ちぶれたくない。そんな時、同じ境遇の同僚の弁当写メを見て思った。「凄いい! おいしいそう。」熟年離婚を避けるためにも、窮鼠猫をかむ。今では、すっかり弁当男子。毎週、土日は食料品のまとめ買い。ついでにまとめて焼いたり煮たり、そして冷凍。前の晩、何品かのおかずを冷凍庫から取り出し、冷蔵庫で自然解凍。だから、朝は、おかずを詰め込むだけ。「何だ、弁当なんて簡単じゃん!」そう思ったら、日々の食事も気にならない。

執務環境は抜群だが、生活環境はいまいちの北総研。しかし、遅ればせながら、ここでの勤務で熟年離婚は避けられそう。

(総務部 中川)

=====
研究紹介「鉄筋コンクリート造異形柱の構造特性把握・設計法構築のための
曲げ応力に対する構造耐力・破壊特性に関する研究」
=====

私達、構造計算適合性判定センターでは北海道内に建設される建築物の構造計算書について日夜審査しております。一方これら計算書につきましては、円滑にかつ滞りなく審査が完了できるよう情報展開を行うことも主たる業務の一環となっています。

本研究は、敷地の高度利用を目的とした場合に建築基準法上の各斜線の制限を受け、あたかもその斜線制限で切り取られたような外観を有する中高層鉄筋コンクリート建物が建設される場合があり、建築計画によっては柱も斜線で切り取られたような台形または五角形の柱断面（ここでは総称として”異形柱”と呼んでいます。）で構造計画されるケースがあるなかで、そのような異形柱の構造耐力評価手法・設計法の構築を目指し、基本的な構造特性である曲げ応力に対する耐力特性を明らかにすることを目的としています。

現在はコンピュータによるソフトを用いた構造計算がほぼ100%近い状況であり、このような断面は長方形柱に置換するなどの設計手法により計算されるのが一般的ですが、実際にこのような断面の構造耐力を分析したり計測した報告は国内にほとんど無く、現在の諸規準との比較や想定耐力との対照など、全てにおいて新しい知見を得る試みであると考えています。

この研究は3年計画をもって基本の部材耐力である曲げ耐力について、実験を基に確認していきたいというコンセプトで研究を開始しました。初年度となる本年度は、主として形状や発生率などについての統計処理を行い、さらに2体の異形柱について予備試験を実施しています。来年度以降は予備試験の結果を分析し、代表的な断面及び材料構成をパラメーターとした試験体を作成し、かつ実験結果を得ることで形状と耐力の関係や部材特性についてデータの集積が進み最終的には技術支援情報などの形で情報展開できればと考えています。

なお、本研究については北総研の構法材料グループとタッグを組んでの2人3脚での実施となっており、北海道らしいフロンティアスピリットに満ちた研究テーマとなっておりますので、興味を持っていただければ幸いです。

(構造判定G 本間)

=====
最近の研究所の動き
=====

■【北海道科学技術奨励賞を受賞しました】

当所環境G堤拓哉主査が平成26年度北海道科学技術奨励賞を受賞しました。

この賞は、北海道の発展に寄与する科学技術上の優れた発明、研究を行い、今後の活躍が期待される若手研究者に贈呈されるものです。
堤主査は積雪シミュレーションの建築・都市への応用と風雪障害対策の技術開

総判定日数（受付から結果通知までの期間）の平均日数は31.8日（前月比約+6日程度）、実判定日数（設計者の修正期間を除く実際の審査期間）の平均日数は5.8日（前月と同程度）でした。

設計上の不明な点や誤りについて質疑確認事項を設計者に発信して説明を求めますが、2月に入ってから、その回答をいただくまでの期間が長くなっています。

年度末への業務対応などで指摘事項等への対応に時間を要しているとヒアリングで説明される方が増えています。

建設新聞の記事でも取り上げられましたが、当判定センターでは3月2日より図書付き事前相談の受付を開始しました。図書付き事前相談は設計図書を用いながら、より詳細に事前相談に対応するものであり、確認本申請後の審査や判定がスムーズになり円滑な確認手続きが行えるように取り組んだものです。判定センターのホームページには、より詳しい説明や申し込み様式などを準備していますのでご活用下さい。

また、既に設計各団体からもお知らせが発せられておりますが、3月20日（金）に「平成26年度 建築確認における構造審査円滑化のための講習会」を開催いたします。今年は6月1日に改正法が施行されることから改正建築基準法を中心とした適判制度に関する留意点や実務上の懸念事項などの最新情報などをお伝えするとともに、判定の実績による指摘事項の傾向や留意点、構造設計の基本的事項などについて解説する内容となっております。

構造審査手続きを円滑かつ迅速に進めるため、広く設計者の皆様にご参加いただけますようご案内申し上げます。（募集は定員に達したため締め切りました）

（構造判定G 渡邊）

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：(地独) 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所